

発表日	平成 28 年 10 月 20 日 (木)	発表形式	講演 or ポスター展示
所属・氏名	公益財団法人 横浜市緑の協会	よこはま動物園	山田 晃代
発表名称	セスジキノボリカンガルーの飼育経過報告		
ジャンル	動物園	部 門	事業事例

1. はじめに

よこはま動物園ズーラシアでは、開園当初の 1999 年よりセスジキノボリカンガルーを飼育している。本種は、パプアニューギニアに生息し、野生下での個体数が正確に把握できていない上に、飼育個体数も世界中に 49 頭と極めて少ない。(2016 年 9 月現在) また、繁殖も容易ではなく、当園でも例はあるものの、成育にはいたっていない。そこで、2012 年から世界動物園水族館協会 (WAZA : World Association of Zoos and Aquariums) が管理する国際種管理計画 (GSMP : Global Species Management Plan) に則り、世界中の飼育施設が協力しながら繁殖を進めている。その中で、当園にペアリング可能な雌雄が揃い、これからの繁殖が期待されるため、これまでの飼育経過と今後の展望を報告する。

2. セスジキノボリカンガルーとは

ニューギニア島の中央部から東部の低、高山地に生息している。背筋に黄土色または淡い茶色の縦じまがあり、樹上での生活に適応したしっかりとした前肢を持っている。頑丈な前肢の爪で枝を握って木に登り、長い尾を使って、樹上でバランスを取っている。一般的なカンガルーと同じく双前歯目に属し、未熟な状態で出産し、育児嚢 (ポーチ) で育てる有袋類である。



3. 国際種管理計画 (GSMP) とは

各国の動物園や水族館が連携して絶滅の危機にある野生動物の種の保存や血統管理を行う国際的な取り組み。世界動物園水族館協会 (WAZA) が主導し、域内外における保護活動を計画している。他に、スマトラトラやオカピなど全 7 種の動物が対象となっている。

4. よこはま動物園での飼育歴

1999 年に福岡県にある到津遊園 (現到津の森公園) より雄 1 頭を借り受けたのを皮切りに、2000 年にパプアニューギニア環境保護省より、雄 1 頭、雌 2 頭を譲受した。その中で、1 頭の雌は育児嚢に子どもがいる状態で導入した。この場合は繁殖後の導入となり、日本動物園水族館協会 (JAZA) で定められる飼育下繁殖の規定外となる。しかし、その後、その子どもは無事に成育し、ビワと名付けられた。また、もう一方の雌が当園で 2001 年に出産するも、日本動物園水族館協会での規定にある 6 か月生存を満たせなかったため、成育とは認められなかった。その後、アメリカのサンディエゴ動物園より繁殖契約で雄 2 頭を導入するも、成果は残せず、2012 年にはビワとビワの母親であるワリの雌 2 頭のみ飼育となる。

5. ビワの血統の遺伝的重要性

ビワの母親であるワリはパプアニューギニア環境省より野生保護個体として導入した個体であり、導入時すでに育児嚢にビワは存在していて、いわば 2 頭は野生由来の血統であり、各園館の飼育個体と血縁がないということになる。2012 年の時点で母親のワリは既に繁殖適正年齢を大幅に超えていたが、娘のビワ

はまだチャンスが残されていて、飼育下個体群の中で繁殖をすることに重大な意味を持っていた。そこで、日本動物園水族館協会を通じて、本種の国際血統登録を担っている、オーストラリアのメルボルン動物園と調整し、ビワを繁殖目的でメルボルン動物園へ搬出する代わりに、同年制定されたセスジキノボリカンガルーの国際種管理計画（GSMP）に基づき、ペアリング可能となる雌雄との1対2の交換が成立した。

6. 新個体の導入

2013年、オーストラリアのパース動物園より雌のタニが導入される。導入時6才と若く、国際種管理計画が繁殖適正年齢とする3才～14才の範囲内であり、すぐにでも繁殖が期待されていた。ところが、同計画の中で血統を管理する上で、近親交配になることを避けペアリングするとなると、なかなか雄個体が導入できないまま3年を経過することとなった。

2016年5月、ペアとなる雄のモアラがシンガポール動物園より導入された。この個体の年齢は3才であり、雌であるタニを導入した頃に繁殖した個体となる。飼育下個体群が極めて少ない中での血統管理の難しさが見られた一例である。

7. それぞれの個体の現在と今後の展望

当園で飼育中のモアラ（雄）とタニ（雌）においては隣室での飼育となっていて、お互いを気にしたり、雄が雌の糞尿の匂いを確認するなどの行動は見られているが、雌が発情したときに発現するとされる、雄の喚声はまだ見られていない。また雌では、糞中から得られる性ホルモン値を測定し、それが周期的なものであるか確認中である。単独行動であり、同居のストレスを感じやすい動物であることから、慎重にペアリングを進めていく必要がある。

一方、メルボルン動物園へ搬出したビワについては、まだ繁殖に至っておらず、ペアリング経験の豊富な雄を保有しているとされる同国のカラビンワイルドライフサンクチュアリへ移動している。繁殖適正年齢はすでに超えているため、早急な結果を求められている。